

JET からの手紙

好奇心の風

山口県防府市教育委員会 外国語指導助手
Cameron Peagler (キャメロン・ピグラー)

ALT とは

JET プログラム 5 年目の私は、いつも楽しい授業を心がけて英語を教える手伝いをしています。以前、私が 3 か月しか教えていない生徒が、私を良い教師だと認めてくれたことがありました。彼は、授業で学習した文法のポイントを十分に覚えていなかったのかもしれませんが、私の存在は彼に強い影響を与えたようでした。これは、JET プログラムの主な目標の 1 つである「地域レベルの国際化」を達成していると言えるのではないのでしょうか。そして、この国際交流は教室内での学習に留まらず、「外国語指導助手 (ALT) とは何か」という問いにまで発展すると私は考えます。ここでは、私自身の経験をもとに、JET プログラム参加者と地域社会との関わり方について意見を述べたいと思います。

スポーツ

スポーツは、言語を超えた世界共通語であると私は考えています。そういった意味では、地域コミュニティと関わる上で最も手取り早い方法の 1 つです。



フェンシングの全国大会にて

私は、アメリカで全国レベルのフェンシング選手として活躍しました。その経験を活かして、指導者としてフェンシングを教えたこともあります。日本でも山口県のチームに所属し、新しい友人ができました。共に高め合い、チームを中国大会で優勝に導いて、2021 年の全国大会に出場することができました。

個人的な取り組み

JET プログラム参加者は皆、特定の興味や倫理観を持っています。元看護師である私が意識しているのは、公衆衛生です。

新型コロナウイルス感染症が発生したとき、私が日本に残ることを決めたのは、自身のコミュニティが困っている姿を目撃したからです。そこで、「プロジェクト・ヒロ」を立ち上げ、市内すべての小学校・中学校に再利用可能なマスクを寄付しました。さらに、在日米国大使館の医師や職員、地域のリーダーや専門家と感染症対策などについてのチラシを作成し、アンケートによるその効果分析を行いました。

アンケート結果から私が気付いたことは、日本の教師



マスクの贈呈式

のメンタルヘルスに関する知識不足です。私はさまざまな教師に対しインタビューを行い、その原因を探りました。これにより、教師の仕事量の増加やデジタル時代における子どもとのコミュニケーションの複雑さ、賃金にほとんど影響することのない残業の常態化などの懸念が明らかになりました。私は、日本の次世代を担う子どもたちのために、文字通り魂の一部を捧げている教師の実情を知り、とても悲しく感じています。そこで、CONNECT Magazine（現役 JET プログラム参加者向けの月刊誌）に ALT による教師へのサポートを提唱する記事を掲載しました。

また、私は、困窮しているシングルマザーを支援するために、自身が住むまちで最初のフードドライブ（家庭で余っている食材を地域のフードバンクなどに寄付する活動）を行いました。この取り組みは評価され、現在も継続されています。

創作活動

アートには、観客を魅了し、変化をもたらす、コミュニティを巻き込む力があります。私はその力を信じ、写真家兼クリエイティブディレクターとして、コロナ禍で中小企業の経営者を支援する写真展など、いくつかのプロジェクトを実施しました。



プロジェクト「Black Gold」の広告

私が最近完成させたプロジェクトである「Black Gold」にはいくつかの目標があり、その1つが日本の黒人コミュニティと日本人コミュニティをつなぐことでした。展示は山口、横浜、東京のギャラリーでの3回に加え、アメリカでも7回行いました。私の活動は多くの団体から支援を受け、東京での展示は、日本の英字新聞にも取り上げられました。



「Black Gold」が掲載された紙面

結論／提言

これまで私が行ってきたさまざまな活動を紹介してきました。さて、ここで質問です。ALTとは何でしょうか？

それは「外国語指導助手」とであると答える方が多いでしょう。しかし、ALTは単に英語を教えるだけではなく、日本と出身国をつないでより多くのものを提供できる存在であると私は信じています。実際、ALTとの交流は、日本人が英語を学ぶきっかけになるという点で、机上での教育よりも重要ではないかと考えています。ALTの皆さんには、JETプログラム参加者としての役割をしっかりと考えていただきたいと思います。

最後に

5年間という任期も終わりに差し掛かりました。私は自分の時間を有意義に使い、自身や地域社会に変化をもたらすことができたと自信を持って言えることを嬉しく思います。しかし、それだけではなく、この手紙を通して皆さんに当事者としての問題意識を持っていただきたいと考えています。次世代のJETプログラム参加者と関係団体が、このプログラムを単なる英語学習のためだけでなく、社会全体の向上に向けて取り組む機会であると捉えてくださることを切に願っています。

プロフィール



Cameron Peagler
(キャメロン・ピグラー)

アメリカ出身。看護師として勤務したのち、写真家としてアーティスト活動を行う。社会貢献にも熱心で、その一環として英語を教えている。アメリカや日本で社会のためになる創作活動を続けることを希望している。